

教育改革の方向性と教育の情報化

「eスクール ステップアップ・キャンプ 2015 東日本大会 in 東海」
「平成27年度第2回佐賀県ICT活用教育フェスタ」 基調講演から

文部科学省生涯学習政策局情報教育課情報教育振興室長 新津 勝二

既報のとおり、平成27年12月5日に国立大学法人愛知教育大学教育未来館において開催された「eスクール ステップアップ・キャンプ 2015 東日本大会 in 東海」と12月13～15日に佐賀市文化会館・佐賀県総合体育館において開催された「平成27年度第2回佐賀県ICT活用教育フェスタ」における文部科学省生涯学習政策局 情報教育課新津情報教育振興室長の基調講演から内容を抜粋してご紹介する。講演では、学習指導要領の改訂や高大接続改革について、また、それらを踏まえての〈教育の情報化〉の今後について述べられている（編集部）。

本日は、「教育改革の方向性と教育の情報化」というテーマですが、今年の夏、中央教育審議会各部会から「学習指導要領改訂」と「高大接続改革」などに関する大きな教育改革の方向性が示されましたので、そのことを中心に説明をさせていただきます。最後に、それら国の教育改革の方向性を踏まえた上で、今後、教育の情報化をどう推進すべきかについてお話をさせていただきたいと思います。

1 教育の現状と課題

最初に我が国の現状と課題です。日本の一人あたりのGDPが、1993年に世界2位であったものが、2012年には第10位に下がってきてしまったというデータがあるなど、日本の国際的な存在感が低

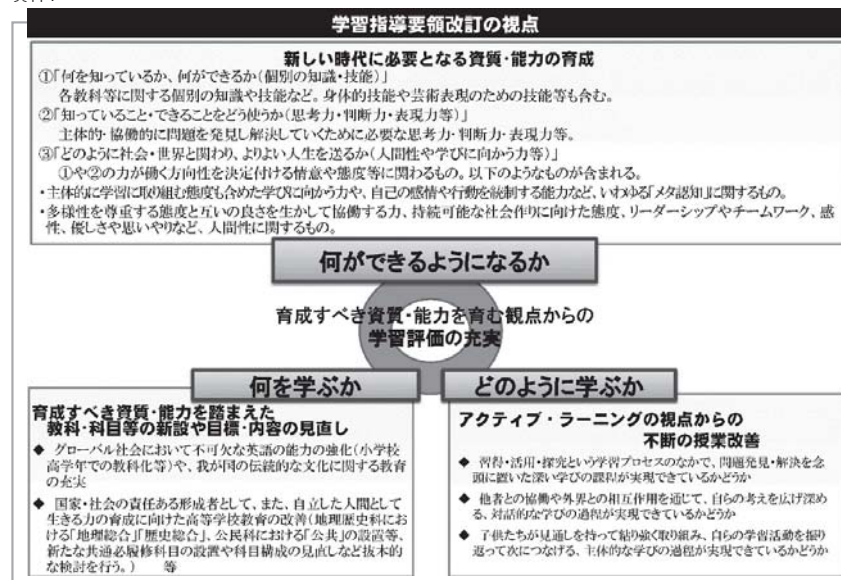


写真・新津室長

下しているのではないかとということが取り沙汰されています。また、少子高齢化が進み、今から約50年後には、人口が3割減り、なおかつ、高齢化率が4割を超えるという予想もある中、関連して15～65歳未満である労働の中核を占める生産年齢人口が、2010年には8000万人だったものが、2060年には4000万人に減少するだろうということが予想されています。さらに、今の小学生が就職する頃には、65%が今は存在しない職業に就き、10～20年後には約半分の仕事が自動化され、現在の職業の多くはなくなっていくのではないかとすることも研究者等から報告されています。

そのような中、我が国の生徒の学力の状況はどうかという点、2000年に始まったOECD生徒の学習到達度調査（PISA調査）で、2003年に科学的リテラシーは上がったものの、数学的リテラシーと読解力については下がった時期がありました。いわゆるPISAショックと言われ、この時が、ちょうど学校週5日制に対応するため授業時数を厳選した学習指導要領改訂と重なったため、子供たちの成績が下がったのは、いわゆる「ゆとり教育」が原因ではないかとの報道がされました。しかし、この後の2009年から右肩上がりに伸び、2012年には1位、2位を占めており、平均点についても比較可能な調査回以降最も高くなっています。この結

資料 1



果は、総合的な学習の時間や言語活動の充実が要因であるという分析もありますが、成績下位層の学力が上昇したことが大きな要因ではないかという見方もあります。特に、日本の先生方が学習指導だけではなく、部活動を含め、生徒指導、生活指導などきめ細かな指導をしていただいた成果だということをここで強調しておきたいと思います。

しかし、数学的リテラシーや科学的リテラシーの平均得点が伸びているにも関わらず、数学・理科の学習に対する生徒の意識調査を見ますと、「数学・理科の勉強は楽しい」「数学・理科を使うことが含まれる職業につきたい」という意識が、国際平均と比べると日本はかなり低いという結果が出ています。また、生徒の自己肯定感、社会参画に関する意識も、自分の参加によって社会現象が変えられるかもしれないということについて、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」という高校生が7割を占め、他国に比べて高いという結果が出ています。我が国の児童生徒については、学力は上がっているものの、意識や意欲などの問題で大きな課題があることが分かります。

こういった児童生徒の課題と10年後、20年後の未来の姿を見据えて、今回の学習指導要領改訂の議論が、今まさに進められているところです。

2 学習指導要領の改訂の視点

学習指導要領は、全国どの地域で教育を受けても、大規模校でも小規模校でも、一定の水準の教育を受けられるようにするため、文部科学省が学校教育法等に基づき、各学校で教育課程を編成する際の基準を定めているものです。

今回の改訂では、学校教育法30条2項に定める学力の三要素を、学習する子供たちの視点から三つの柱で整理していることが大きなポイントです（資料1）。

現在の職業の多くがなくなるだろうと予想されるなど、変化の予測が難しい新しい時代に必要となる資質・能力を、①「何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）」、②「知っていることを・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」そして、知識・技能と思考力・